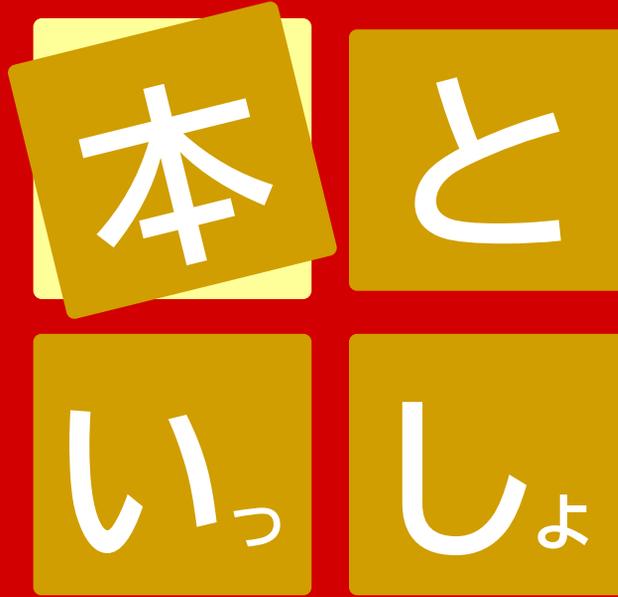


2022



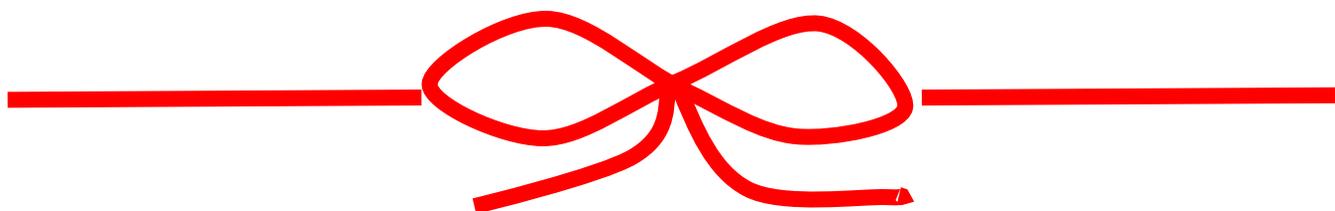
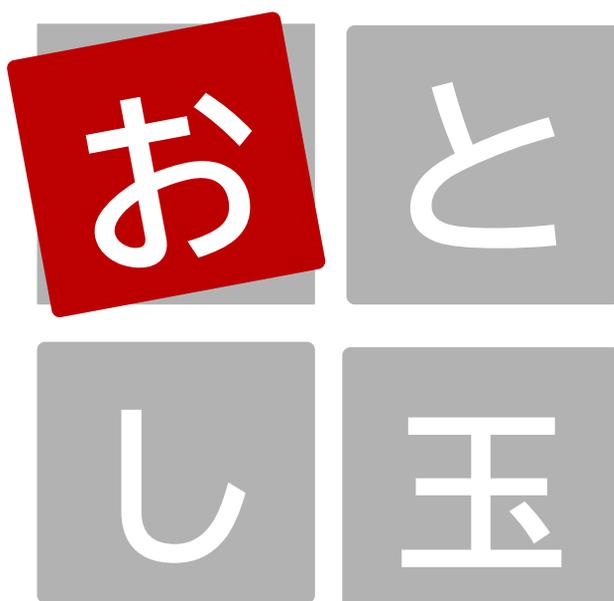
～つるおかの読書の未来を考えよう!～

つるおかのみなさんと、
つるおかの読書の魅力について語ろう

読書は、学びであり、楽しみであり、そして「知的好奇心」を満たしてくれる。子ども時代に、宝物となるような出会いがあること、読書を通して心豊かで健やかに成長できることを願い、鶴岡市子ども読書活動推進計画をつくりました。

そして、大人も読書を楽しみ、未来を担う子どもたちと関わりながら、共に「読書の魅力」について考えてみませんか。

読書の魅力、可能性について語りましょう。



読書のヒント!

医師であり、読書家であり、
作家である黒羽根先生に
お聞ききしました。

黒羽根 洋司 さん (くろばね ようじ)



プロフィール

1947年 山形県鶴岡市に生まれる。

1972年 福島県立医科大学卒業後、諸病院勤務。

1977年より14ヶ月間

JICA（国際協力事業団）の派遣医師として
西アフリカ・ガーナに滞在。医療協力に従事する。

1986年 鶴岡市に黒羽根整形外科を開院。

2016年 同院を閉院 この間著書、講演多数。現在に至る。

「『読書のまち 鶴岡』を進める会」代表

著書

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 「ビンテージ-白髭先生の診療余話-」 | 1997年 近代文芸社 |
| 「耕せども尽きず-白髭先生の出会いと感動-」 | 2002年 近代文芸社 |
| 「懐かしき人々-父の父たちの物語」 | 1999年 荘内日報社 |
| 「遥けき国、ガーナで」 | 2005年 文芸社 |
| 「Kさんへの手紙」 | 2007年 文芸社 |
| 「病者の心を心として-庄内の医人たち-」 | 2010年 メディア・パブリッシング |
| 「空を仰ぎ風にふかれて-しろひげ先生の四季便り」 | 2013年 ライトハウス パブリケーション |
| 「この日、この町、この私。」 | 2016年 ライトハウス パブリケーション |
| 「庄内の女たち」 | 2018年 ライトハウス パブリケーション |
| 「白球を追いつ人々」 | 2020年 |

読書の まち

『読書のまち 鶴岡』を進める会」の代表である黒羽根先生にお聞きします。
どのような活動をしているのですか。

2011年に読書推進活動を行っている有志が集まり、「読書の意義と力」を市民と共有することを目的に会が結成されました。

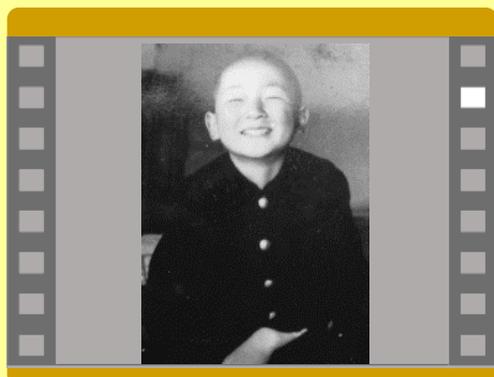
2015年には、それを具体化するものとして「読書のまち 鶴岡」宣言の採択を市議会に申請をしましたが、残念ながら不採択でした。2017年、読書で地域を元気に！『読書のまち鶴岡』を進める会」と名前を改めて、再スタートをきり、現在に至っています。

毎年度の活動方針を決め、会員からの承認を得た講演会、古典の日の集いを行っています。読書に関する影響力のある人や古典の各ジャンルの専門家を招いての講演は好評を得ております。

その他には地元紙の協力を得ての「リレーエッセイ(私の一冊)」の掲載、「まちじゅう図書館」マップの作成、有志の読書会などを行っています。

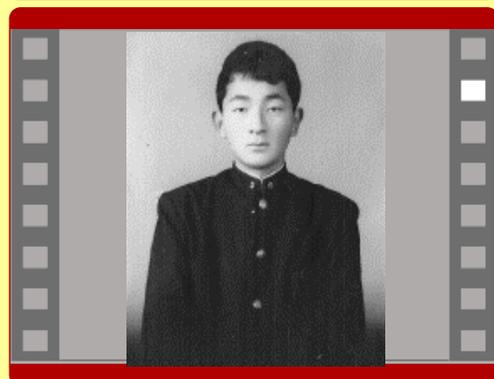
読書の 歴史

子ども時代に読んだ思い出の本は？
先生が読書家になったきっかけの本は？
今いちばんお気に入りの本は？
どんな時に、本を手をしていますか。

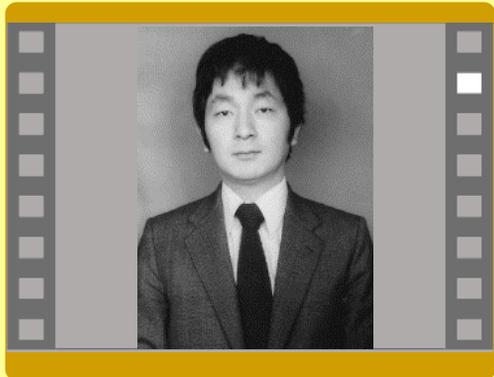


Q.子ども時代に読んだ思い出の本は…。
『次郎物語』(下村湖人)

Q.読書家になったきっかけの本は…。
中学時代は和洋問わず「推理小説」、
高校時代は太宰治の諸作品。



Q.今いちばんお気に入りの本は…。
沢木耕太郎、向田邦子のエッセーを
主とした諸作品。歴史小説。



Q.どんな時に、本を手をしていますか。
人物評伝を書く時に資料となる関係者
の作品を参考にしたいとき。
日々の生活、時間に追われ自分の心が
パサパサしていると感じた時。

読書の魅力

読書の魅力、または読書の可能性について
そして…これからの未来を担う子どもたち
が読書好きになるヒント！を教えてください。

Q.読書の魅力、可能性とは…

本を読んで考えたりすることは、脳を鍛え表現力を豊かにします。感動することや好奇心が発達します。相手を思いやる想像力などの情緒が豊かになります。

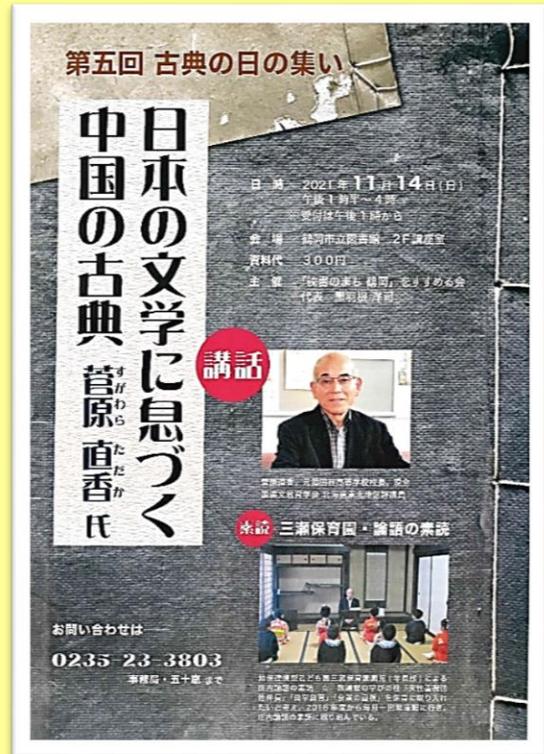
本の中にいる大勢の人間と出会ったり、見知らぬ遠いところまで旅することができます。

Q.子どもを読書好きにするヒント！

まず大人が本を楽しむこと。

そして、その喜びを押しつけるのではなく、子どもの前で自然の姿として見せることが、子どもと本との関係を築く一番の方法だと思います。慣れるとテレビやスマホより、はるかにおもしろいんですけどね。

『読書のまち
鶴岡』を進める会
で主催した
「古典の日の集い」



『読書のまち 鶴岡』を進める会』を設立して10年が
経ちました。この間の読書環境は著しく変わりました。

若者、大人の本離れを打開するための方法を、より
真剣に考えていく必要があります。

「古典の日」のような社会人が参加できるリカレント
学習、学び直し教育の場が大切です。

おおやけの教育行政とは別に、民間の立場から人材
育成に貢献できればと願っています。